



2013 年 8 月 第39号

「白子川源流・水辺の会」会報紙

- 特集 マルバヤナギの木のしたで
■大泉南小「白子川博士になろう」
☆新会員紹介
◆シリーズ 3「白子川 Q&A」
□定例活動報告

白子川な風景 3

樹の声を聞きながら…。



この夏。
猛暑のさなかに
猫が見つけた避暑地は
マルバヤナギ。

樹に抱かれる姿は
神々しくもあり
怠惰的でもあった。

午後3時すぎ、
樹のぼりっ子たちが
やってくると、
だまって去っていった。

こうして源流あたりは
“ちゃっかりもの”たちが
次々とやってきては
“わがまま”していきます。
(菅沢 博)

定例活動報告

4月、5月、6月、7月

□ 白子川源流域と活動の様子

春から、夏にかけて



川のがけ下から、湧き水が出ている。
「ほら、さわってごらん」と、川のおじさん。

*源流域・水の測定データ

測定地点	日 天気 気温 項目	4/28	5/26	6/23	7/28
		24.5	24	28.5	35
源 流 部	水温℃	22.2	—	22.5	30.1
	水深cm	22	0	22	13.5
	PH	5.4	—	6.7	6.7
井 頭 橋	水温℃	16.8	22.3	23.4	26.8
	水深cm	35	11	33	23.5
	PH	5.8	6.9	6.7	6.7

このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。

源流部は4月に降った雨で、それまでの渇水が一度に解消、青々とした若い水草の姿を映す水面が広がった。春、水も温むこの季節、定例時も親子ずれの子たちでにぎわう源流の姿は、どこまでも明るくすがすがしい。

ところが、雨がしばらく降らないと5月には、また渇水状態にもどってしまった。ホトケドジョウなど生きもののために、源流部の水を少しでも確保しようと、5月の定例活動では井頭橋下に設けた堰（通称、井頭堰）の源流側に、田んぼの畔よろしくドロ壁を築き、水の流出を防ぐ作業をした。この作業時も白子川応援隊の少年少女が積極的に参加。ツルハシ、スコップで真っ黒、ドロドロになりながら楽しく働いてくれた！ありがとね。

6月、梅雨の恵みの雨で、また水量はもとどおり、源流部は活気にあふれる。水辺の生きものたちは、この時とばかりに大いに繁殖する。愛らしい子ガモの親子が白子川沿いを散策する人々の目をしばし楽しませてくれる。

夏本番を迎えつつある7月、水量はまだ保ってはいても、雨が降らないと次第に渇水状態になっていく時期だ。背の高いガマやカンガレイにおおい尽くされた源流部は、夏休みに突入した子どもたちで大賑わい。定例時、「びすけっと」さん募集の大勢の親子さんに生きものいっぱいの川体験をしてもらった。

8月夏真っ盛り。案の定、川は渇水状態に。しかし、水があってもなくても、子どもたちにとって川は友だち、冒険できるステキなあそび場になっている。（東谷 貞子）

活動記録

5/ 2 源流通信第38号発行
5/16 大泉南小4年担任の白子川体験
5/24 大泉南小4年「白子川学習」授業
5/25 運営会議
5/26 全国一斉川の調査リハーサルに参加
定例活動
6/ 2 全国一斉川の調査
6/ 9 「若者と市民の環境会議」パネル出展

6/16 第13回 定期総会
6/23 定例活動（「いんせくとかふえ」来訪）
6/27 大泉南小4年の白子川体験
7/ 6 まちセン・小場瀬所長関係者来訪
7/ 9 和光市立第五小の川体験サポート
7/27 運営会議（源流まつりの企画会議）
7/28 定例活動（「びすけっと」川体験）
8/25 定例活動

新会員紹介 ☆ 岡崎 一成

“わたくし、生まれも育ちも練馬区西大泉でございます。姓は岡崎、名は一成、就職と同時に練馬を離れ早 25 年、ひさ方ぶりにふるさと大泉に帰って参りました”

ベンベン♪ (寅さん風です 笑)

さて、それまでは大阪におりまして、環境省きんき環境館が開いたシンポジウム(?)で、白子川の活動が紹介されました。子どもたちが川に入って楽しそうに遊んでいる写真を見て、東京には白子川という名の川がふたつあるんだなあと思っていました。なんせ、私が知っている白子川は灰色のヘドロの川です。

“練馬区を流れる白子川”の文字を見て、**じえ!じえ!!じえ~!!!** でした (笑)

大阪では淀川に生息する天然記念物イタセンパラ (タナゴの仲間) の産卵母貝であるイシガイの生態について専門家の方々と研究していました。関東にも生息していますが、白子川、石神井川、黒目川、入間川、高麗川、荒川 (上流部荒川村付近と下流部葛飾付近) を探しましたがまだ見つけれられていません。

昔、白子川にもタナゴがいたと聞きます。ならば、二枚貝も生息していたことは間違いありません。

白子川でみなさんに学びながら、白子川をみなさんと子どもたちの心にいつまでも残るふるさとの川に育ててゆけたらいいなと思っています。

これから、どうぞよろしく願いいたします。

大泉南小学校 4 年生総合学習



5/24(金) 授業

今年も 4 年生(118人)の総合学習(20 時間)のスタートにあたり、キックオフ授業を担当した。今年も多くの子が「白子川博士」になってほしい。
(担当者:菅沢、横山、永井)



6/27(金) 川体験

いよいよ白子川に行く日がやってきた。川に入る前に「みどり広場」で地下水の“音”を聞いた。川では学校からの協力要請に集まった保護者のおかげで、ハラハラドキドキの白子川体験は無事に終わった。



◎マルバヤナギの樹の上では猫と子どもたちの“先陣あらそい”が続いていますが、樹の上だけでなく樹の下でも、水辺でも、水中でもみ～んな、朝な夕なに源流あたりにやってきては、「みんなの白子川」を謳歌して帰っていきます。



◎表紙の、猫が寝ていた樹(マルバヤナギ)は、冬には葉は落ちてサッパリする。



◎春の大泉井頭公園でデッチッと鳴くアオジに気づいた。耳を傾けないと聞こえないほど。



◎ツミがいた!!
写真はこの春に2回源流近くの旭出学園横の電線にとまっていた姿。

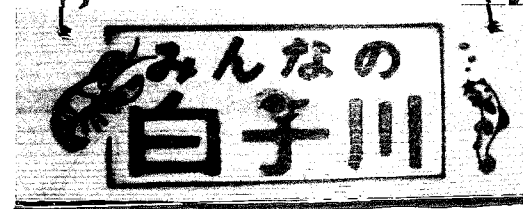
数年前は幼鳥も見た。生態系の三角形の頂点にいるツミ(タカ科)がいることで源流あたりの生物多様性は豊かであることがわかる。



◎川で水につかると気持ちがいいのはなぜだろう? 広い水の中で生き物と一緒にになれるから?



◎源流に“恐竜”? ある日めずらしくカワウがやってきた。魚を大量に食べてしまうカワウは来てほしくない。



◎「おら、登りてえから登るだ」と言ったかどうかは知らねども。川底から、C難度の護岸を登らないと気がすまないらしい。ついに登りきると、きまってワートと走り出してどこかへ消えていく子がよくいる。

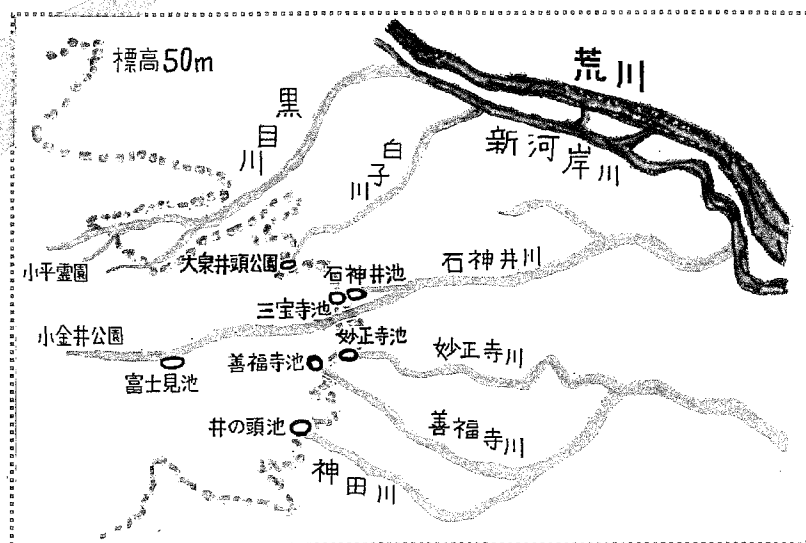


◎ネコジャラシが午後の光で輝き終わる頃には、源流にカワセミがやってくる。

白子川はなぜ

ここから

はじまるの？



Q 同じ一級河川なのに多摩川や荒川は干上ったなんて話を聞いたことがありませんが、白子川はなぜ干上がるんですか？

A 確かに白子川も同じ一級河川ですが、それは新河岸川・隅田川という荒川水系の一級河川に注ぎ込む川で、しかも一定の大きさがあるという理由からです。

ところで、荒川の源流はどこか知ってますか。甲武信（こぶし）岳という、甲州・武州・信州にまたがる山です。多摩川の源流も、雲取山のもっと向こうの笠取山というところですよ。二つの川は、高い山々に降った雨やそれを貯めて湧いた水が方々から流れ込んできて大きな流れとなり、干上がることはありません。

一方、白子川はどうでしょう。白子川は近くに高い山がありません。白子川は、この辺りに降る雨だけが頼りの川なのです。だから雨が降らないと干上がってしまうのです。荒川や多摩川とは成り立ちがまったく違う川なのですよ。

Q では、どうしてこんな住宅地のど真ん中から水が湧いてるんですか？

A そう、実に不思議な話ですよ。でも、上

の地図を見て下さい。この付近には白子川と同じように湧水だけを水源とする川がたくさんあったことがわかりますよね。これは一体どういうことなのでしょう。

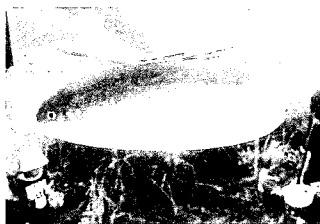
大泉を含めこれらの水源はいずれも、西が高く東が低い武蔵野台地の上にあります。降った雨は、大昔に富士山や箱根の噴火で降り積もった火山灰の関東ローム層の下にある礫層に貯まります。その武蔵野台地が、標高50m前後のこの辺りで、急に勾配が緩くなっているのです。この付近の崖などから地下に貯まった水が湧いて出ている、というわけです。清水山・稲荷山のような大きな崖だけでなく、白子川源流には方々に湧水地点が見られます。

1960年代前半まではどの源流部でも畑が多かったのが湧水も豊富でした。しかし、現在ではどこも住宅が建てこんでコンクリートやアスファルトだらけ。しかも雨水を下水に流しているので、土中にしみ込む雨の量はわずかです。その結果、湧水が減ってしまい、今では地下水をくみ上げているところも多いのです。

白子川の源流は100%湧き水ですから、私たちは雨水をしっかりと大地にしみ込ませる工夫と努力をして、川が涸れないようにしなくてはいいけませんね。（東谷 篤）

白子川体験

7/28(日)に、地域のボランティア団体「びすけっと」さん主催の白子川体験がありました(教育委員会青少年課から受託した「ねりま遊遊スクール」)。総勢30数名で川の隅々までめぐり、大きなアブラハヤをゲットした子も。時間がたつのも忘れていたのはむしろ親のほうでした!



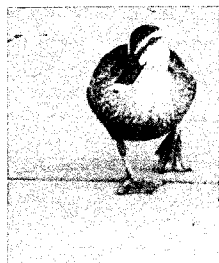
今後もさまざまな団体やグループの白子川体験を受け入れていきます。

川の一斉調査

「身近な水環境の一斉調査」は2004年6月に開始され、多くの市民や学校の子どもたちが統一的な調査マニュアルにもとづいて、全国一斉に調査しています。調査日は毎年、世界環境デーに近い日曜日とされ今年は6月2日。当会では、源流～外環大泉インター下の地点までの4カ所を調査しました。

私は以下の調査主旨を実施することで、副次的な効果が得られるのではないかと思います。

■身近な水環境から河川の流域さらに広域の水環境の保全を考えるきっかけとなる。■汚れの原因が明らかになれば、水環境を保全・修復するために、身近にできる実践活動に結びつけることができる。



■調査に参加した多くの人たちと連携の意識をもつことができる。■子どもたちが調査に参加することにより、将来に活動を引き継ぐことができる。

総会の報告

6/16(日)に、第13回定期総会が東大泉地域集会所で開催され、活動報告・決算報告・予算・運営体制等が承認されました。第二部の講演会では、國分邦紀様より、武蔵野台地の地質と地下水について大変有益なお話をいただきました。

<役員>代表・菅沢博

副代表・東谷篤

会計・永井薫

<運営委員>池田正、池野明男、渋谷良郎、渋谷瞭司、菅沢博、鈴木安友、東谷篤、永井薫、秦康博、町田勇、望月孝、八本賢二、横山松栄、鷺田芳夫、渡部薫

(下線は新任者)

これからの活動予定

9/ 8(日)源流まつり実行委員会

※21(土)は運営会議はお休み

22(日)定例活動

29(日)竹炭、焼印、わら筆づくり

10/ 6(日)源流まつり最終実行委員会

26(土)源流まつり準備

27(日)第13回白子川源流まつり

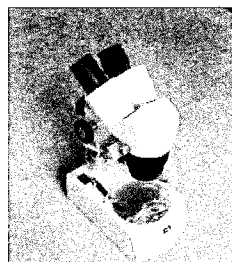
11/23(土)運営会議

24(日)定例活動

12/21(土)運営会議

22(日)定例活動 & 竹キャンドル

双眼顕微鏡を
購入しました。



源流まつりでまってるよ〜



白子川の生き物 38 / 横山 松栄

クサヨシ

源流部に生える多年生のイネ科植物。高さは150cmに達する。茎は白緑色。初夏に花を着ける。花の一つ一つは小穂(しょうすい)といい、扁平で長さ5mm。これが連なって長さ15cmの円錐花序を形づくる。葉は互生で、長さが20~30cm、幅が8~15mmの扁平型。スジグロチャパネセセリという蝶の食草。地下茎で増殖する。



編集後記

▼昔の白子川は鬱蒼とした沼だったという。遊びに来て怖い思いをした村のこどもに思いをはせ、久しぶりに川中を歩く。コンクリートの薄暗いトンネルに丸石が黒く光る。向こうに抜ける光景はまるで野外スクリーンのように。兩岸から覆いかぶさる葦の川道…。いつしか私も怖いモノ見たさに、葦原の底なし沼に迷い込んで、しばし汗引く。(さ)

▼源流部の植生は、草丈のある植物が占拠している。7月の定例活動では、カマを使ってウキヤガラを刈った。慣れない手つきで始めたが、夏の日差しに「休みながらねー」と声をかけてもらっても、せっせせっせと止まらない。雨不足で源流部の水は心もとない。その貴重な水を背の高い植物たちは、たっぷり吸っているんだろうなあ。(け)

発行 白子川源流・水辺の会
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題字 宮本沙海
発行部数 1,250部
代表 菅沢 博 03-3923-8430

練馬区南大泉 1-10-5

suga-lohas@jcom.home.ne.jp

http://www.geocities.jp/sirako_river/

※この会報は年3回発行しています

当会は TOTO 水環境基金の助成を受けています